

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2018.4.28)

マークレビンソン「No.515」他の試聴会に行ってきました。

日時：4月28日(土) PM1:15~PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

<使用機材>



マークレビンソン ベルトドライブプレーヤー No.515 ¥1,080,000
(カートリッジ別売)



マークレビンソン モノラルパワーアンプ No.536 ¥3,456,000 (ペア)



マークレビンソン ステレオパワーアンプ No.534 ¥2,322,000



マークレビンソン プリアンプ No.526 ¥2,322,000 (デジタル入力付き)

マークレビンソン プリアンプ No.523 ¥1,890,000



マークレビンソン プリメインアンプ No.585.5 ¥1,728,000



マークレビンソン デジタルオーディオプレーヤー No.519 ¥2,322,000



JBL ホーン型スピーカー Model-4367WX ¥1,555,200 (ペア)



REVEL スピーカーシステム F-228Be (ベリリウムツイーター搭載)



オルトフォン MC型カートリッジ CADENZA-BLACK ¥291,600



当日のセッティング

<試聴の経過>

最初に使用機器の説明があり、途中 REVEL のスピーカー、マークレビンソンのアンプおよびアナログプレイヤーについての詳しい説明がありました。アナログプレイヤーの紹介はディーラーのサイトにあります。

<http://marklev.harman-japan.co.jp/product.php?id=no515>

カートリッジはアナウンスされたものとは違い MCQ-30 が使用されました。なお、下掲の写真は MCQ-30s のものです。

<http://www.a-sq.net/item/mcq30s.html>



試聴は、No.515のアナログプレイヤーとNo.519のデジタルプレーヤー、No.585.5のプリメインアンプ、REVELのスピーカーという組み合わせで始まりました。No.585.5はフォノモジュール内臓です。

まず、アナログからということで女性ボーカル、次にUSBメモリー中のデジタル音源で、これも女性ボーカルがかかりましたが、ともに歯切れのよい、くっきりとした音でした。

次にクラシックということで、アナログでチャイコフスキーのV協、デジタル音源でベートーベンのチェロソナタがかかりましたが、ともにくっきり系の明晰な音ですが、からっとした音で、もう少し弦のウェット感がほしい感じです。

ここでアンプの変更があり、プリアンプのNo.523とステレオパワーアンプのNo.534の組み合わせとなり、最初にアナログのオルガン曲がかかりましたが、やはり明晰な音で、アンプの駆動力も上がった感じでした。デジタル音源のジャズはびったりくる印象です。

さらにアンプをモノラルのNo.536×2台に替え、スピーカーもJBL4367に交換されました。

ここからは、アナログのジャズが2曲、女性ボーカル、男性ボーカルとサックス、お馴染みのホテルカルフォルニアと続きましたが、アンプの駆動力が上がり、JBL4367を十分に駆動しきっていて、こういう系統の音楽を鳴らすようにできているというポリシーがしっかり見えていました。

<まとめ>

システム全般にハーマンカードンのポリシーが明確に出ており、ジャズ系にはこういう音があうのであろうという印象でしたが、クラシック系ではもう少し倍音の豊かさや適度な湿度感がほしい感じでした。

アナログプレイヤーは作りがしっかりしていて破綻のない音がしていましたので、アンプやスピーカーを替えてクラシックをじっくり聴いてみたいものです。

以上